

鶴岡市総合計画審議会第1回産業専門委員会

- 日 時 令和5年1月16日（月）午後2時00分～午後4時18分
- 会 場 鶴岡市役所6階大会議室
- 出席者 別紙委員名簿のとおり（全員出席）
- 傍聴者 なし
- 協議題等
 - 1 委員長選出 菅原剛委員を委員長に選任
 - 2 委員長職務代理者の指名
藤科智海委員を職務代理者に指名
 - 3 説明 事務局から説明
 - (1) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について
 - (2) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の産業分野の評価・検証について
→質疑内容は下記のとおり
 - 4 協議
 - (1) 後期基本計画策定において重視すべき点について
→主な意見は下記のとおり
 - (2) その他 特になし

- 質疑応答 第2次鶴岡市総合計画基本計画の評価・検証について

【委員】

- ・委員会資料の検証内容は総合計画の主な施策の一つ一つに合わせた表現になっていないが、主な施策について検証した結果は別にあるのか？

【事務局】

- ・主な施策全部について庁内で評価・検証した調書を作り、取組の実績と課題を洗い出した。委員会資料ではかいつまんだ形にまとめている。

- 主な意見

【委員】

- ・主観ではなくデータに基づいて施策を行っていくことが大切。自分たちが思っていることと現実とのギャップを埋めるのが施策であり、自分たちがどの位置にいるのかを認識しなければならない。また、データだけではだめで、ブランディングも必要。
- ・「観光」は国の在り様やその地域の在り様を伝える広報の役割だったが、特定の分野の産業になってしまった。「観光」の再定義を鶴岡が先頭切ってやるべき。
- ・人口構成が変わり産業の在り様も変わる転換期が、コロナで更に加速した。KPIも評価基準自体を変えないといけない。

【委員】

- ・農業の算出額は減少に向かっている。個々の農家の経営規模は大きくなってきて、水稲、大豆、新規需要米にシフトする傾向がある。園芸作物の減少が懸念され、園芸専業農家の育成が課題。法人形態をとって、水稲部門なり園芸部門を作って育成する方法もあると思う。
- ・肥料や燃油等経費が高騰し補助金も減額されていく中でも農家を続けられるよう、どうフォローするかが課題。
- ・中山間地では、農地に関わらないと、不便な集落に住む意味がなくなり、集落から出て行ってしまい集落自体がなくなるということが起きている。法人を作っても、法人のみで農地や水路・農道などを維持管理することは難しい。地域のコミュニティを守る意味でも兼業農家の育成が重要。

【委員】

- ・以前は神社参拝の観光客は60代以上の団体が主流だった。今は、旅行も自分でスマートフォンを使って調べて行きたいと思った場所に行ける。発信の仕方を変えたら参拝者の年齢層が変わり、若い人の参拝が増えた。鶴岡まちなかの散策などに繋がればいいと思う。
- ・酒井家入部400年に関して情報発信をしたが、地域の人が一番地元の歴史を知らないと感じた。地域の人が地元の歴史を知って次の時代に伝えていくためにはどうしたらいいか考えていきたい。
- ・コロナでいろんなことがストップしたが、自分はイベント等もほとんど中止せずに行ってきた。地域の人たちにも「私もやろう」という気持ちを持ってもらえるように活動している。

【委員】

- ・KPIが本当に適切か、数が増えれば本当にいいのかを改めて検証する時期だと思う。人口減少が進み、税収も減る中で、KPIの達成に費用がどれだけかかったかも検証しなければいけないし、残り5年間で何を達成するのか。どこに注力するのか、どう取舍選択するのかを考えないといけない。
- ・既に外の世界を知っている大学生向けに「戻ってこい」と言っても手遅れ。中高生のうちに、鶴岡にどのような産業があり、強みはどこなのか、どんな生活ができるのかを高校の探求学習やキャリア教育なども使って伝えないといけない。
- ・若者が価値を感じる点と、我々がアピールしたい点にはギャップがある。アピールの仕方を間違えると逆効果。
- ・鶴岡市や庄内地域の企業は他地域と比べ働き方改革や女性活躍推進のセミナーに参加していない。意識改革や声かけを進めていかないと、庄内だけが取り残されてしまう。基礎自治体ができることを考えて進めていければと思う。
- ・鶴岡市の官民連携の取組はサイエンスパークに偏っているように感じる。他の頑張

っている地元企業とも官民連携を進めていけるとよりよくなると思う。

【委員】

- ・農業生産量は生産者の高齢化と担い手不足で右肩下がり。新規作付者を増やしているがそれ以上に高齢化などでやめる人もいる。「つるおかアグリプラン」で目標とする農業産出額 400 億円の達成は厳しい。しかし、量が少ない分市の支援も有効活用して単価で下支えして農家の所得を確保しており、方向的には悪くないと思っている。
- ・3年ごとに定める中期経営計画・地域農業振興運動計画の中でも、人材育成・確保を最重要課題として取り組んでいく。全般的に現在の大綱4に則った形で進めており、大きな見直しは必要ないと思う。
- ・資料5の「新規就農者の方に親身になって世話をしてくれる人がいない」という意見に、PR不足を反省。年間の作付け計画や週1回の指導員巡回など親身に対応している点をPRしてもっと頼りにしてもらいたい。

【委員】

- ・結婚を機に転入し、商店街の古い町家を改造してカフェを運営しながら暮らしている。商店街は高齢の店主が多く、空き店舗や空き家も多い。新しく加わりたい人がいるだろうかとネガティブに考える人が多いように感じる。
- ・大綱5(2)「明るく元気な地域の活力の源となるまちのにぎわいの創出」で、中心商店街での自転車数や歩行者数が増える想定でKPIを想定しているが、人口減少・高齢化の局面で増えていく目標を掲げることが適切なのかと思う。
- ・自分は商店街に「魅力がある」と思い引っ越したし、もっと若い方が続いて欲しいとも思うが、それには新しく出店する場所が必要。成果指標にも「中心商店街における空き店舗率」とあるが、空き店舗があってもなかなか貸してくれないこともある。行政はそういう点を把握しているだろうか。
- ・希望を持って「新しくここで仕事を始めよう」と思われるには、地域の大人たちが楽しくいきいきとやりたいことをやっている姿を見せる必要がある。若い人、女性、みんながやりたいことを実現できるまちにしていけたらと思う。

【委員】

- ・旧温海町と鶴岡市の合併で、鶴岡市の水産業は勢力が増している。
- ・総合計画の施策は県の水産振興計画とマッチしていいが、県管理の港など鶴岡市だけでは何ともならないことがあるので、絵に描いた餅にならないよう、県と連携しての取組が大切である。
- ・鶴岡市が管理する八つの漁港には、漁業者がほとんどいないところや全くいないところがあるので、集約を急ぐ必要がある。
- ・温海地区は、昔からサザエやアワビ、海藻類を採ってきたが、今アワビがとれなくなって、ムラサキガイ（ムール貝）を代替として使おうとしている。こうした変

化について行政のサポートをお願いしたい。

- ・鶴岡には素晴らしい技術がある。例えば庄内おぼこサワラは毎年県の水産研究所で品質を調べるが、有名なところのサワラと比べてもピカイチの結果が出ているので自慢してもいいと思う。
- ・庄内北前ガニは県全体で獲る量が 58 トンと決まっている。量を増やしてもらおう、一緒に県に働きかけをしてほしい。
- ・鼠ヶ関には紅エビなどの品質の良い資源があり、大漁旗フェスティバルも人気だが、宣伝下手とも言われる。市町村の区別なくいろんなところで協力して売り込んでいきたい。
- ・山形では魚にいろんな加工をして出している店もある。例えばクチボソガレイと大山のお酒のタイアップとか、学校給食向けとか、加工を活用した取組もやっていきたい。

【委員】

- ・KPI 自体を見直すのはいいが、まず現時点で KPI での評価が悪いものについて検証した方がいい。KPI 自体が間違っているものと、KPI はいいが取組の見直しが必要なものがある。評価 B のものも、順調なのか見直しが必要なのか細かく見た方がいいと思う。
- ・総合計画の主な施策には載っているが、検証についての資料では詳細が確認できず気になったところを挙げたい。資料が既にあるということなので、取組が進んでないところを確認して変更できればいいと思う。
(総合計画基本計画大綱 4 と 5 の主な施策のうち、実際の取組の有無や取組内容について疑問に感じたものを列挙した。)

【委員】

- ・昨年木材の生産現場で死亡事故が発生した。効率的な木材生産の中でも安全が求められていると思うので、総合計画の中に安全という観点も挙げてほしい。
- ・山林所有者の高齢化と不在地主の問題がある。山の場所も境界もわからず、森林組合をやめて山も手放したいという相談もある。山を放棄することは難しいし、組合からの情報提供を活用してほしいと話している。相談を受けてもできないことも多いが、相談先がわかるだけで肩の荷が下りる面もあり、解決策のひとつになると思う。
- ・朝日庁舎の改築工事では木質バイオマス、チップを燃料として暖房に使うと聞く。チップもいいが、資源は地域の中で循環することが大切なので、地域で建物を建てるときの構造材として木材を使ってほしい。鶴岡市は木材の分離発注をしているいろいろな公共建築物を建ててきた。公共の木造建築を進めることが民間の建物の木造にも繋がる。
- ・若者の転出超過や労働力不足の理由に低賃金もあると思う。森林組合では、今年度

従業員を賃金を月給制に変更した。平均年収の目標を立てて給与の底上げで就労の環境整備を図っていききたい。

- 今はどこも SDGs の取組を進めている。総合計画でもいろいろな産業における SDGs の具体的な取組を考えればよいと思う。